

平成 19 年 8 月の解説（府県天気予報）

【8月の天候状況】

上旬の初め台風第5号が九州から日本海を通り北海道に進んだため、西日本、北日本を中心に雨が降りました。その後中旬にかけては、ほぼ全国的に太平洋高気圧に覆われて晴れて暑い日が続きましたが、沖縄地方では台風や熱帯低気圧の影響を受けて、雨の日が多くなりました。下旬の初めと終わりは、前線が北日本から西日本にゆっくり南下したためほぼ全国的に雨が降り、中頃は高気圧に覆われて晴れました。

月を通しての日照時間は、北日本の日本海側で平年並、南西諸島では平年より少なく、その他の地方では平年より多くなりました。降水量は平年に比べて北日本から西日本にかけての太平洋側で少なく、東日本から西日本にかけての日本海側と南西諸島で多くなりました。気温は全国的に平年より高く、これまでの月平均気温の最高値を更新した観測地点もありました。

【8月の検証結果】

17時発表の天気予報で「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報が80%で例年（注）より2ポイント高く、明後日予報が79%で例年より5ポイント高くなりました。地方毎の適中率では、明日予報は沖縄地方で例年より9ポイント低く、北海道、関東甲信、近畿、中国地方で例年より5から6ポイント高くなりました。明後日予報は北海道、東海、北陸、近畿地方で例年より8から9ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べて関東甲信、中国地方で0.3小さく、全国平均は0.1 小さい1.6 でした。また、最低気温の予報誤差は、ほぼ全ての地方で例年並で、全国平均は例年と同じ1.2 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の天気予報から】

8月16日は、全国的に暑くなり、埼玉県の熊谷と岐阜県の大垣では日最高気温が40.9 と、全国の観測史上最も高い気温の記録を更新しました。東京（大手町）の日最高気温も37.0 を観測しました。暑さは翌日も続き東京では日最高気

温が 16 日を 0.5 上回って、37.5 となりました。

16 日の 17 時に発表した東京地方の天気予報では、明日（17 日）の天気を「晴れ昼過ぎから曇り」で東京の最高気温を 34 と予報しました。

これは、停滞前線が 17 日から 18 日にかけて東北地方から関東地方をゆっくり南下すると予想し、関東地方は午後には雲が広がり日差しが無くなるため最高気温は 16 日より 3 から 4 低くなると考えたためです。

実際、停滞前線は昼過ぎに東北南部付近、夜には関東南部付近とゆっくり南下し、東京地方は 17 日午後になって雲が広がったものの、予想に反して薄雲が中心で日照が十分にあったため、気温が上昇し最高気温は予想より 3.5 も高くなりました。

日中の気温は日照の有無に大きく左右されるため、このように雲の厚さの予想の違いで、最高気温が予想と大きく違ってしまいます。

【10月の天気予報の利用にあたって】

秋になると低気圧・高気圧が交互に通過するようになります。低気圧が通過するときには雨や曇の天気、高気圧に覆われると晴れの天気と交互に数日の周期で繰り返すようになります。さらに移動性高気圧が連なって、晴れの日が続くこともあって、さわやかな秋晴れの日が多くなります。ところが、一方では低気圧が急激に発達しながら日本付近を通過し、大雨や強風など大荒れの天気となることもあります。大雨や強風についての気象情報が発表されたときは、常に最新の注意報や警報などを入手・活用して十分に注意されることをお勧めします。

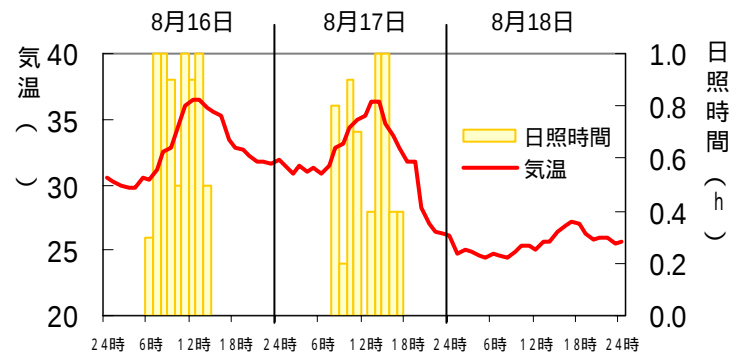


図1 2007年8月16日から18日にかけての東京(大手町)の毎時の気温と日照時間の経過

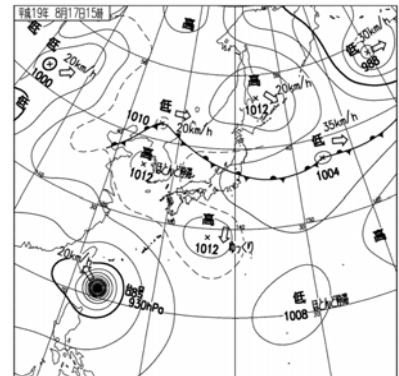


図2 2007年8月17日15時の地上天気図

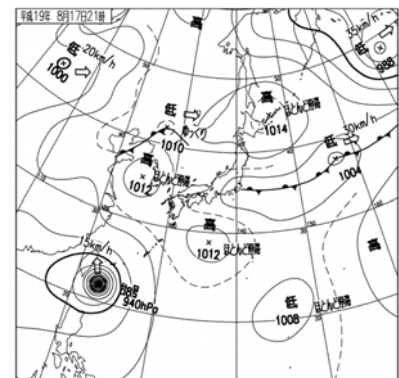


図3 2007年8月17日21時の地上天気図